

## ● 12 月度木曜例会

12 月度木曜例会 (10/12/02)

今回のスピーカーは 10 月に引き続き再度の登場 Dalia さん。イスラエルとイラン、2 か国の国籍を持っています。タイトルは “Iran, A Journey to Seven Thousand Years of Mysticism.”

(イランと言えば 2 年以上前 Mohammad さんが “イランは要らんか?” というテーマで話してくれましたね。)

今回彼女が我々に伝えたかったことは 1) ペルシャの奥行きの高さ 2) 彼女の情熱の根源がどこにあるのか、どこから来ているのか と言う事でしょう。実は先回の内容からは彼女がユダヤ教で、イランを憎みイスラエルを信奉しているだけの人、との印象を受けませんでしたか。とんでもない勘違いでした。イランとイスラエルが今敵対関係にあるという事実からだけでは読み取りにくい、何千年の中東とヨーロッパの歴史のなかから、人間が自由を愛し、リスクを背負って戦ってきたことを「ペルシャ」と言う媒体を通じ我々日本人に働きかけているのだと思います。ではその内容とは?



## ● .

スピーチの内容

今回の題名を日本語に直すと「7000 年の神秘の旅」です。ペルシャは、7000 年の歴史を通して、民族大移動の中心地として、シルクロードの十字路に位置し、様々な部族社会が形成されていきました。いずれ、世界一大きな帝国を築き、「アーリア人の国」という意味で「イラン」と名付けました。バビロニア、インダス、クルドなど 28 の国を支配し、東はインドから、西はエーゲ海まで、北は中央アジアから、南はエジプトまで広がっていきました。それぞれの国の文化、言語、民族、部族、宗教をそのまま認めて、寛容な政策で統治し、巨大な共存国家を築きました。今でいうアメリカのような国作りでした。正に“ペルシャ合衆国”には、マルチ人間が住んでいました。早い時代から信仰の自由、交易の自由、そして、幸福を求める自由がありました。境界線もわりと緩く、自由に行き来できたため、人と物の交流が活発になり、飛躍的に発展していき、近代国家への礎を作りました。

自由の旅

アケメネス朝ペルシャで重視された「自由」はやがて、歴史を旅し、ヨーロッパへ辿り着き、ルネッサンスという時代を作りました。ヨーロッパのルネッサンスは、シルクロードの自由な発想から生まれた文学、数学、天文学、地理学、医学を受け継ぎ、中世の暗黒時代から解放され、花開きました。「自由」はそこからいずれ、アメリカに辿り着き、現在のアメリカ合衆国の建国精神は、古代ペルシャの多民族多宗教共存国家を実現しているのです。「自由」はこうして何千年の歴史を通して色んな国を旅してきました。「人権や経済や男女平等」が守られている時期は、国は栄え、自由がなくなったときには滅びてしまうことを歴史が教えてくれます。それは、イランの歴史、“7000 年の自由の旅”を見るだけでもわかります。



● .



### The United States of Iran

Persia was a strategic place for inland and ocean transport and also the starting point of the Silk Road. Its intricate designs (in art, architecture, ceramics, glass, clothing, etc.) established trends which permeated the culture of the T'ang Dynasty in China and then spread to Japan, the last station of the Silk Road. Due to its geographic location at the crossroads of Central, West, and South Asia, Iran is a mosaic

of ethnic and linguistic groups.

The Achaemenids occupies a very sacred place among the great civilizations of the world. The influence of Persian culture on civilization over the span of 7000 years is immeasurable. Persia contributed prolifically in the arts, sciences, agriculture, mathematics and literature, to name a few.

Nomads of different cultures, languages and ethnic origins, traveled across this borderless land until the spirit of Persia permeated the area, creating an awareness of a unified background, culture, way of expression, and spirit, under one umbrella called Iran.

The first king of Iran, Cyrus the Great ruled 28 other kings under his vast empire. He declared himself as the king of kings and his empire was virtually the United States of Iran, with rights we have today in the first world countries.

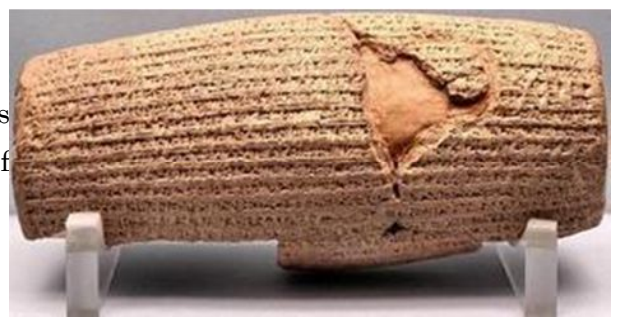
The United States of Iran consisted of 28 states. Now those states are divided into Iraq, Central Asia and Afghanistan. All the “stan” countries like Tajikistan, Uzbekistan, and Turkmenistan were states. Stan is the etymology for the word, state in English, Strana in Russian, and Stradt in Germany. Ancient Persia was diverse, borderless and the cultures intertwined,

Even the founding philosophy was the same. What Iran stood for in the ancient days, is what the United States of America is supposed to stand for today, in other words tolerance for different ethnicity. This is where idea of the United Nations first took roots. This is where it blossomed.

● .

Cyrus the Great and his human rights declaration.

Cyrus II conquered Media, Lydia, and Babylon. Cyrus was politically shrewd, modeling himself as the "savior" of



conquered nations. To reinforce this image, he instituted policies of religious freedom, and restored temples and other infrastructure in the newly acquired cities. (Most notably the Jews of Babylon, as recorded in the Cyrus Cylinder and the Tanakh).

The Cyrus Cylinder was dubbed the "first declaration of human rights" It was the precursor to the modern Universal Declaration of Human Rights.

The heritage of Cyrus was the heritage of human understanding, tolerance, courage, compassion and, above all, human liberty.

The laws for equality and human rights were written in Cuneiforms labor rights. Equality for men and women, for all religions, for virtually all the basic



#### ペルシャの食文化

イランは砂漠の国、という印象を持っていませんか。イラン北部では、万年雪の山が連なり、その雪解け水が国全体を潤すため、広大で肥沃な農地があり、稲作と酪農も盛んです。北部は米、南部は小麦の生産が多く、食文化も多彩です。イランでは、パンのことをナーンと言います。7千年前からナーンを作り続けてきました。洞穴のような竈(かま)の壁にぺたっと貼り付けて焼きます。

米もナーンのように主食の一つで、種類も多く料理法によって使い分けています。田圃風景は日本とそっくりです。写真はペルシャのお焦げご飯です。麵の発祥の地はペルシャかもしれません。と言うのも麦はこちらから中国に伝わったので、麵もお米も中東が発祥の地だという説が最近増えてきています。イランでは、他にお茶畑も沢山あり、緑豊かで花々は咲き乱れています。

ペルシャ料理は、あまりみなさまにイメージがありませんが、16世紀のペルシャルネッサンス時代に、北インドの肉料理に大きな影響を与えています。全ての道はローマに通ずということで、中世ヨーロッパの王侯貴族の甘酸っぱい肉料理に影響を与え、アラビア宮廷で芸術ともてはやされました。また、シルクロードを経て、東西文明に多大な影響を与えたペルシャ料理の原型は現在の西洋料理にも見られます。



#### ペルシャのワイングラス

One of the most important art objects is the Persian Sasanian white glass bowl (cut glass). This bowl is part of the Shosoin treasure collection in Nara. Of all the historical treasures of Shosoin, this piece traveled the longest distance. Shosoin is the only treasure house in the world where a 1500-year-old Persian glass wine bowl has been preserved totally intact. A photo of this treasure is printed in the standard Japanese





sixth-grade history book as a symbol of this era and suggests that the Nara period may have been the most cosmopolitan time in the history.

Wine bowls are typical recurring themes of Persian poems and literature. The wine bearer pours truth and happiness into your wine glass, and delivers enlightenment and this was an esteemed culture.



写真にある正倉院で保存されている白瑠璃碗（ペルシャのワイングラス）はササン朝ペルシャ時代（AD224~642）の芸術品です。2枚目の写真は、ダリアの祖父が日本に持ってきた白瑠璃碗で何百年も土の中に埋もれて発掘されたので正倉院のものほど綺麗ではありません。ペルシャがルーツと言われている多くの宝物のなかで、いちばん人気あったのがこの白瑠璃碗です。中に入れたワインが一番綺麗に見えるようなカットがなされているシルクロードのヒット作でした。ワインを注ぎいれると、ルビーの輝きのように美しく、1300年前、祖先たちはこんな綺麗なワイングラスでお酒を飲んでいました。



#### ペルシャの春いちばん

ペルシャのお正月は三月二十一日で、日本ではこの日は春分に当たります。この日を境に昼が夜より長くなり、光の世界が闇の世界より大きくなります。春に自然界が生まれ変わるという意味も含まれます。2500年前に神殿で行われたように、現代でも甘い香水を撒き、ゾロアスター教の新年の誓いをします。「善い想い、善い言葉、善い行いをしよう」

奈良では、初春に行われるお水取りの松明は仏教の儀式で火を使います。実は、お水取りの儀式は古代のゾロアスターの影響を受けている、とも言われています。飛鳥時代にゾロアスター教徒であったペルシャ人たちが日本にやってきて、各地の遺跡や儀式に影響を残していったのではないかという話が作家松本清張の本にも書かれています。

ゾロアスター教は、密教にも影響を与えています。最澄や空海が留学していた唐では、ペルシャ文化がもてはやされ、そこから密教の行法を持って帰ってきたのです。この秘密の宗教は、ゾロアスター教と同じように胡麻を炊く行があり、祭壇に火を燃やし続けるのです。イランでも、火の上を跳び越して、悪いものを火の中に消すというお祭りが毎年行われています。

Nowruz or the New Year' s is the day when daylight exceeds darkness. In the ancient Persian religion, Zoroastrianism, light is the great symbol of God and Goodness, whether in the light of the sun or in the sacred fire. The spring equinox and the lengthening of the days is a symbol of the victory of light over the cold and darkness of winter. That is why the New Year' s begins on this day in Iran. It is also the vernal equinox in Japan.

